

「ステージテクニカルアカデミー2015」

第4回「舞台と関わる～創作を通して舞台技術を考える～」

事業実施報告書

実施日：平成28年2月16日（火）～18日（木）

島根県民会館施設利用課
施設管理・舞台振興グループ

◆1.事業概要

名称：「ステージテクニカルアカデミー2015」

第4回「舞台と関わる～創作を通して舞台技術を考える～」

日時：平成28年2月16日（火）～19日（木）

16日（火） 開場12：30／開始13：00／終了20：30

17日（水） 開場 9：30／開始 9：45／終了20：45

18日（木） 開場 9：30／開始 9：45／終了17：45

会場：島根県芸術文化センター「グラントワ」いわみ芸術劇場

スタジオ1・小ホール

参加人数：16名

主催：公益財団法人しまね文化振興財団（島根県民会館）・島根県

協力：公共劇場舞台技術者連絡会

島根県芸術文化センター「グラントワ」いわみ芸術劇場

助成：一般財団法人地域創造

コンテンポラリーダンス作品を題材に、演出要望の聞き取りから、プラン作成、仕込み、模擬公演までを参加者が主体となって進めることを目的として研修を開催した。参加者へのアドバイス、研修全体の評価観点の立場として、アドバイザーを置くこととした。人選にあたり、公共劇場舞台技術者連絡会の協力を得て、劇場専属の芸術団体、レジデンシャル・カンパニーとしてコンテンポラリーダンス集団「Noism」を抱える新潟市民芸術文化会館りゅーとびあから音響アドバイザー、様々な舞台芸術の展開を行い今年度開館10周年を迎える兵庫芸術文化センターから、総合・舞台・照明アドバイザーを招いた。

◆2. 内容

ダンス作品を題材とした実践舞台技術研修。

2月16日（火）1日目

- ・参加者ディスカッション
- ・ダンス作品実演／演出意図聞き取り
- ・プラン作成

2月17日（水）2日目

- ・舞台仕込み
- ・明かりづくり
- ・場当たり／リハーサル
- ・ダメだし／スケジュール調整

2月18日(木) 3日目

- ・明かり修正
- ・音作り
- ・きっかけ合わせ、確認稽古
- ・模擬公演
- ・反省会

研修演目 C o. 山田うん「結婚」

○ダンサー

C o. 山田うん (山田うん/川合ロン)

アドバイザー

<総合>

関谷潔司 (兵庫県立芸術文化センター舞台技術部長、公共劇場舞台技術者連絡会副会長)

<舞台>

竹内 暢 (兵庫県立芸術文化センター舞台技術部)

<照明>

池田 拓司 (兵庫県立芸術文化センター舞台技術部)

<音響>

金子 敏文 (りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館)

全体進行

島根県民会館 施設利用課 施設管理・舞台振興グループ

劇場管理技術

島根県芸術文化センター「グラントワ」いわみ芸術劇場 舞台技術振興課

◆3. 報告

ステージテクニカルアカデミー2015 第4回のテーマは、「舞台と関わる～創作を通して舞台技術を考える～」である。コンテンポラリーダンス作品を題材に、参加者が舞台・音響・照明の各ポジションに分かれ公演を創る過程を研修した。

参加者は文化施設で働く職員（島根・鳥取・広島・山口・兵庫）の他、機器メーカーからの応募があり、合わせて16名の参加となった。

（1日目）

開講式終了後にオリエンテーションを行い、研修の目的・進め方の説明、自己紹介を行った。研修題材となるダンス作品「結婚」を実際に踊ってもらった後、演出・振付である山田うんさんより作品についての解説。その時点での演出家・演者への質問を行った。

場所を小ホールに移し、舞台・照明・音響3部門のポジション分けと、仕込みプランづくりのためのミーティングを行なった。

配布資料のスケジュールは予め定めている集合時間以外は空白としていた。研修内で必要事項、必要時間を検討し、舞台セクションが主導となって組み立てを行なった。

大枠のプランができたところで1日目の研修終了。

（2日目）

前日に作成した、プラン・仕込み図について各プランナー（参加者）から説明。舞台監督からスケジュールの説明があり、仕込みスタート。リノリウムの敷き込み、照明吊り込み、音響仕込みとポジションに分かれて仕込み作業を行う。照明仕込み作業の遅れから、スケジュールに設定していたタツパ合わせより1時間遅れとなる。その後の照明シュート、明かりづくり、リハーサルすべてが1時間押しとなる。リハーサル終了後、演出のダメだし、翌日の直し作業の確認とスケジュール調整。ダンサーからは、リハーサルに合わせてアップや食事のスケジュールを組み立てているので、時間の変更は早めに伝えてほしいとの指摘があった。

（3日目）

前日のリハーサルで出た修正部分の直し作業、確認稽古。音響・照明のきっかけをダンサーと合わせて確認を行った。ダンサーウォームアップ、技術最終確認の後模擬公演の開場。模擬公演の観客役として、グラントワ関係者（職員、グラントワボランティア会、地元ダンスチーム、スタッフスクール）に声掛けし、約40名の方に集まって頂いた。観客が入ることでより実際に近い緊張感の中で模擬公演を行なった。

模擬公演終了後、反省会を行いこの3日間の研修を振り返った。3日間の研修を終えた参加者の率直な感想、作品と関わった思いをそれぞれが述べた。アドバイザーからは、コミュニケーションの重要性と共に、必要な情報、不必要な情報を見分けていくこと、必要

な情報は自ら取りに行くことが必要だとのアドバイスもあった。

これまでの技術研修と異なり、実践中心となった上、ほとんど初対面のメンバーが、舞台・音響・照明のポジションに分かれてチームを組むというハードルの高いものとなった。

長時間の研修になっただけに、参加者同士の交流が多くみられ、各所属施設や日頃の業務についての情報交換の場となっていた。

参加者の日頃の舞台との関わりは様々であるが、この3日間で演出家とのやり取りからプラン、仕込み、本番まで一連の流れを通して研修したことで、舞台を創り上げることをそれぞれの立場から見直す機会となったのではないかと。

◆ 4. 今後の課題

今回の研修は本番へのアプローチにポイントを置くものであったが、プランへのこだわりが本来の研修目的とのずれに繋がってしまった。目的から外れない進行をしていくためにも、事前計画段階での十分な話し合いが必要であることを痛感した。

また、今回はプロの出演者の作品を題材として取り上げたが、一般の出演者が中心となる作品では問題となるポイントや、時間の組み立て方も異なる。中小規模の文化施設のニーズを拾い上げた研修内容の検討が必要である。

今回、研修アドバイザーとして兵庫県立芸術文化センター、りゅーとぴあ新潟市民芸術館の技術者を招いた。舞台・音響・照明各ポジションに分かれた研修では、参加や社はアドバイザーとの関わりの中で創作の考え方、進め方に刺激を受けていた。一方、施設規模による考え方の違いもあるため、今後は県内施設規模の現状に即した内容、アドバイザーの人選を考えていく必要がある。

◆5. 記録

2月16日(火) 研修1日目



受付



開講式 (スタジオ1)



自己紹介



実演と作品解説



ポジションミーティング



スケジュール作成

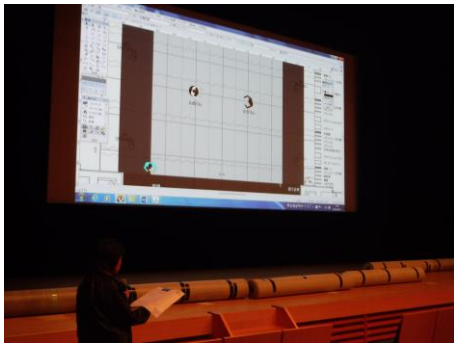


スケジュール説明



演出とのプラン打合せ

2月17日(水) 研修2日目



プランナーよりプラン説明



舞台仕込み



舞台仕込み



音響仕込み



タッパあわせ



照明シュート



明かりづくり



ダメだしスケジュール調整

2月18日(木) 研修3日目



ポジション打合せ



音響調整



舞台最終確認



模擬公演



反省会



反省会(ダンサーより)



アドバイザーによる総括



参加者からの質問



総合アドバイザー関谷氏



舞台アドバイザー竹内氏



照明アドバイザー池田氏



音響アドバイザー金子氏